

コロナ禍における日本のスポーツ業界の今後の在り方について

報告者 井上滯夏（バートルゼミ）

目次

1. 研究背景と目的
2. 国内外の取り組み状況と効果
3. 提案（根拠）
4. 今後の展望
5. 参考文献

研究背景と目的

今年は、コロナウイルスの感染拡大により開幕間近であった東京オリンピック・パラリンピックが延期になった。さらに、コロナ禍において世界中の人々が移動の自由や交流も制限を受けざるを得ない状況に追い込まれ、中でもスポーツ業界を取り巻く状況は厳しさを増し、スポーツをする方も観戦する方も余儀なく対応を迫られる事態となった。

「健全な精神は健全な身体に宿る」といわれるように、スポーツは人間にとって欠かせない要素の一つであり、それによって人間性が鍛えられ、高められる。今後、With コロナの時代においては、如何にしてスポーツに参加したり、観戦したりしてスポーツ業界を支えていけば良いのか。新しい時代にあったスポーツの在り方とは何か。本発表は、こうした問題意識をもってコロナ禍における国内外のスポーツ界の取り組み状況を考察しながら、日本のスポーツ業界の今後のあり方についての問題提起を行いたい。

内容

- ・日本のプロスポーツの現状として、イベントの参加人数制限は現在、「入場者数が5000人以内」か「収容人数の50%以内」のいずれか厳しい条件が適用されている。
- ・海外スポーツのコロナ対策で、アメリカのメジャーリーグでは感染防止の一環として、移動距離を少なくする目的で、西部・中部・東部のそれぞれの地区内だけに限ってレギュラーシーズンの試合が行われている。
- ・プロ野球やJリーグといった人気のプロスポーツでは観客数の制限が残るため、コロナ禍が当面続く。そのため、日本と海外のプロスポーツで、現地観戦者の減少を踏まえたネット観戦という新しいビジネスをしている。さらに、世界的に盛り上がり始めているe-sportsがある。

結論

- ・リアルではない環境下で、情報やサービスを画一的・一方的に提供するのではなく、受け手の趣向に合わせて受け手自らも発信できるサービスが求められている。
- ・ネット観戦、e-sportsは今後のスポーツ業界に大きく関わると考えられる。新しいスポーツビジネスを世界に広めるには、受け手の趣向に合わせてサービスを情報発信することが重要と考える。新たなスポーツ価値が人類の豊かな生活を形成していくことだろう。